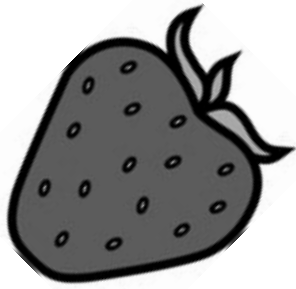


みんなの童話

いちごのさんぽ



「おっかえりー。」
花音ちゃんは大きな声で言うと、パパの声がした玄関へ、かけつけてきます。
「あれれ？ これはなんだ？」
げた箱を開けたパパが、うすくて小さい板を取り出して言いました。
「あー。ごめん。」
さがしていた、いちごのパズルのピースが、げた箱の中から出てきました。
「ママ、ごめん。あったよー。」
花音ちゃんはパパから、いちごのピースを受け取ると、ママのところへ、持っていくきました。
「本当？ いちご、あってよかったね。ごじにあつたの？」
ママは、受け取りながら、花音ちゃんにたずねます。
「へへへ。」
花音ちゃんは、笑っているだけです。
「げた箱の中。花音のくつの上に置いてあったけど、なんでだろうね。」
パパがリビングに入りながら、花音ちゃんのかわりに答えます。
「そっか。いちごちゃん、花音のくつをはいて、おさんぽに行ったのかな？」
ママが言いました。
「かなー？」
花音ちゃんも言います。
二人は顔を見合わせて、意味ありげに笑いました。
「えっ？ なに言ってるの？」
意味がわからないパパは、なかなはずれです。
首をかしげるパパに、ママが説明します。
「いちごのおさんぽね。なかなか、うまくいっていいな。」
パパも感心して言いました。
「いちごちゃん、おさんぽ、楽しかったかな？ ごとに行ってきたんだろうね。」
パパは花音ちゃんに、たずねます。
「んー？ わかんにゃい。」
花音ちゃん、パパ、ママは、それぞれ、いちごのおさんぽを想像しながら、三人で顔を見合わせて笑いました。
おさんぽから帰ってきたいちごは、無事に、おもちゃカゴのお家に入りました。
しろやま会員 すきむら さいせい

ソファの下にもありません。
机の下にもありません。
引き出しの中にもありません。
「ないねえ。」
「じゃあねー。」
花音ちゃんもママのまねをして、一緒にさがします。
おもちゃのカゴの中にもありません。
「ないねえ。いちご、どこにいったんだろ？」
ママは花音ちゃんを見ながら、小さくため息をつきました。
「・・・ねんぼ。」
花音ちゃんと言いました。
「ねんぼ？さんぽねえ。さんぽかあ。じゃあ、いちごが帰ってくるまで、ごはんを食べながら一緒に待っていようね。」
ママは花音ちゃんの言葉にくすくす笑って言うと、さがすのをあきらめて、ごはんを食べることにしました。
「ただいまー。」
しばしばいりひりして、パパが会社から帰ってきました。

「花音ちゃん、ごはんだよ。おもちゃ、しまつてね。」
「はー。」
夜、ごはんの前、ママに言われて、花音ちゃんは元気に返事をしました。
「できたよー。」
「あれっ？ まだ、あるよ。これは。」
「ごちこのパズルがのこってしまふ。」
3ピースパズルなのに、1ピースたりません。それも一番大切な、いちごの赤い実のところがです。
「花音ちゃん、ししなごみ、いじりやったのかな？」
「ごめん。」
ママが、近へをさがします。